

NHK 番組をみつける ウェブで視聴 知る学ぶ 報道・スポーツ 参加・応募する ヘルプ・問い合わせ 受信料の窓口 サイトマップ 地域：東京 NHK

**NHK NEWS WEB** 2018年(平成30年)4月16日 月曜   文字サイズ 小 中 大

日

**ニュース** 動画 News Up 特集 スペシャルコンテンツ

新着 社会 気象・災害 科学・文化 政治 ビジネス 国際 スポーツ 暮らし 地域

加計学園問題 シリアに軍事攻撃 14年前 高2女子殺害 森友学園問題 北朝鮮情勢 ▶ 注目ワード一覧を見る

大分 土砂崩れ 同僚警察官殺害



# 「本当の親に会いたい」 新生児取り違え 当事者男性が訴え

4月12日 19時10分

東京・文京区にある順天堂大学の附属の医院を運営する学校法人は、51年前に医院で生まれた赤ちゃんを取り違えた可能性が極めて高いと、今月、公表しました。この取り違えの被害に遭った当事者の男性が、NHKの取材に応じました。取り違えが明らかになったあと、医院側から謝罪を受けましたが、実の両親についての情報は拒否されたということで、男性は「別の人生を歩んでいたのかと思うと許せない。一度でいいから本当の親と会って話をしてみたい」と訴えました。

今月6日、東京・文京区にある「順天堂大学附属順天堂医院」を運営する学校法人は、51年前、  
医院で生まれた赤ちゃんを取り違えた可能性が極めて高いと、ホームページ上で公表しました。

この問題で、都内に住む51歳の男性が51年前の1月、医院で産まれたことを記載した母子手帳  
やDNA検査の結果などを示したうえで、取り違えの被害に遭ったと証言しました。

男性によりますと、3年前、母親から「自分の子どもではない」と突然告げられ、医院側に事実確  
認を求め、DNA検査などをした結果、去年、医院側が取り違えを認め謝罪したということです。

男性は「母親が『本当のことを伝えないまま、私が亡くなってしまうと、事実がわからなくなる』  
と打ち明けてくれた。最初聞いたときは、まさかあの大きな病院で取り違えが起きる訳がないと思  
ったが、ずっと違和感を抱いたまま生きてきたので、やはりそうかという気持ちもありました」と  
話しました。

男性によりますと、母親が取り違えを疑ったのは昭和48年、小学校入学のときの血液検査だった  
ということです。

男性は「両親ともにB型なのに私がA型という結果が出て、がく然とした母親は、すぐに医院に相  
談に行った。何度も通って取り違えが起きていないか確認を求めたのに『これ以上求めるなら裁判  
を起こしてください』と言われたとのことだった。血液型が違うため、母親は浮気を疑われ、両親  
は離婚した。私は親類の家に預けられ、高校にも行けず、すべてを諦めないといけない状態でした」  
と話しました。

取り違えが発覚したあと、男性は医院側に対し、実の両親が誰か教えてほしいと依頼しましたが、医院側は、個人情報をもとに情報提供を拒否したということです。

男性は「別の人生を歩んでいたのかと思うと許せない。間に合うのであれば一度でいいから本当の親と会って話をしてみたいし、育ての母親もそう思っている。顔が似ていないと言われながら育てられてきたので、実際に会って安心したいし、せめて元気で生きていてくれるのか、事実だけでも教えてほしいです」と話しました。

また、医院に対して「取り違えが起きてしまったことはしかたないが、二度とこういうことが起きないよう、きちんと対応してほしいです」と訴えました。

NHKの取材に対し、医院を運営する学校法人「順天堂」は「ホームページで公表した以外のこと

は個人情報もあり対応できない」と話しています。

## 順天堂医院の対応は

「順天堂大学附属順天堂医院」を運営する学校法人「順天堂」はホームページで今回の経緯を公表しています。

発覚のきっかけは、医院で生まれた当事者とその母親からの申し出で、DNA検査を行った結果、親子関係が存在しないことが判明したということです。

そのうえで、退院後に取り違えが発生することは考えにくいと思われることから、医院で取り違え

が発生した可能性は極めて高いと判断したとしています。

また、当時は分べん後に助産師がもく浴をし、その後、赤ちゃんの足の裏に母親の名前を書くという方法が取られていたということで、名前を書く前に取り違えた可能性などが想定されるとしています。

もう一方の当事者について、保存されていたカルテから、ある程度絞られたものの、平穏な生活を乱すおそれがあるとして伝えない方針だということです。

ただし、本人や家族から問い合わせがあった場合は、誠意をもって対応するとしています。

最後に「本人をはじめとする関係者の皆様に心よりおわび申し上げます。改めて万全の態勢により細心の注意を払っていきます」とコメントしています。

## 取り違え防止策 医療機関では

新生児の取り違えを防ぐため、産婦人科の医療機関は現在、誕生直後の赤ちゃんに母親の名前が入ったバンドを複数つけるなどの対策を取っています。

東京・江東区にある産婦人科では、妊婦が入院する際に、自分の名前と番号が印刷されたバンドを着用してもらい、赤ちゃんが生まれた直後、母親の確認のもと、同じ内容が書かれたバンドを赤ちゃんの両足に付けています。

バンドは、名前が漢字で書かれたものとカタカナで書かれたものをそれぞれの足につけるようにし

ていて、赤ちゃんの体型の変化などで片方が取れても、確認できるようにしているということです。

また、診察などで赤ちゃんと母親が離れる際には、互いのバンドの名前が合っているか確認していて、赤ちゃんを母親の元に戻す際にも、再度確認しているということです。

この産婦人科では、毎月80人ほどの新生児が誕生していて、過去には同じ時期に同姓同名の母親が入院したケースもあったということで、助産師たちが気付いた点を共有するなどして、取り違えが起きないように注意しているということです。

3日前に男の子を出産した29歳の母親は、「自分でもまだ子どもの顔を覚えられない時期なので、しっかり確認をしてもらえると自分の子どもだと安心できる」と話していました。

助産師の山川美智子さんは「母親は命懸けで出産をしているので、私たちも人生を預かる気持ちで仕事にあたっている。なにげないときにヒヤリ・ハット事案が起きてしまうことがあるので、日頃から意識を高く持つことが大切だ」と話していました。

## **専門家「被害者が本当の事実を知ることができるように」**

生まれたばかりの赤ちゃんが、病院などで取り違えられたことが明らかになったケースはこれまでも相次いでいます。

昭和48年に発行された日本法医学会の学会誌には「昭和32年から46年までの間に合わせて32件の取り違えが起きていたことがわかった」と記されています。

また、平成18年には、都立の産院で昭和33年に産まれた際、取り違えられたと、男性や家族が訴えた裁判で、産院側のミスが認められました。

このほか、平成25年には、東京・江戸川区の男性が昭和28年に生まれた病院で取り違えられたとして、社会福祉法人を訴え、裁判所が賠償を命じる判決を言い渡しています。このケースでは、男性は実の弟たちと会うことができたということです。

この裁判で、男性の代理人を務めた大島良子弁護士は「自分がどこから生まれ、どんな環境で育っていたはずなのか知りたいと思うことは人間が持つ根源的な欲求だと思う。医院側も個人情報の問題はあがるが、当事者と真摯（しんし）に向き合い、説明する責任があるし、取り違えられた被害者が本当の事実を知ることができるようにするべきだと思う」と話しています。